様式６

平成21年度共同利用実施報告書（研究実績報告書）

１．　共同利用種目（該当種目にチェック）

□特定共同研究(A)　□特定共同研究(B)　□特定共同研究(C)　■一般共同研究

□地震・火山噴火予知研究　□施設・実験装置・観測機器等の利用

□データ・資料等の利用　□研究集会

２．課題番号または共同利用コード　２００９－Ｇ－０６

３．プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：WIN システムの 64 ビット環境への対応

英文：

４．研究代表者所属・氏名　九州大学大学院理学研究院・植平　賢司

（地震研究所担当教員名）　卜部　卓・鶴岡　弘・中川茂樹

５．利用者・参加者の詳細（研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること）

氏名	所属・職名	利用・参加内容または施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日数	旅費支給
植平賢司	九州大学・助教	白山工業	2010 年 2 月 25 日～26 日	2	有
植平賢司	九州大学・助教	東京大学地震研究所	2010 年 3 月 11 日～12 日	2	有

６．研究内容（コンマ区切りで３つ以上のキーワードおよび 400 字程度の成果概要を記入）

キーワード：WIN システム、64 ビット化、汎用環境

WIN システムは、地震のフェーズの検測や解析、大学・気象庁・防災科学技術研究所などの機関間のデータ交換に広く使われている UNIX 上で動くシステムである。近年、コンピュータの 64 ビット化が進み、最近では様々なソフトウェアが対応するようになったことから、安価な汎用のコンピュータでも 64 ビット環境が普及してきた。しかし、現在 WIN システムは 32 ビット環境のみで動き、64 ビット環境のコンピュータでは正常に動作しないため、32 ビットモードでコンパイルするか、そのようなモードがサポートされていない場合は、別の 32 ビットマシンを用意する必要があった。

そこで、64 ビット環境も含めた汎用環境で WIN システムを動かせるようにした。まず、データの型は typedef により環境によって独自に定義するようにした。また、共通関数をライブラリ化し、今後の保守を楽にするようにした。このようにして 2009 年度は、**recvt, order, shmdump, raw_mon, wdisk, wdiskts, insert_raw, wck, ls8tel_STS, ls8tel_STM, raw2mon, wchch, wch, wchasn, win2raw, winadd, wtape, setexb, fromtape** の 19 のプログラムを 64 ビット化した。

７．研究実績報告（公表された成果のリスト*1または 2000～3000 字の報告書）

（*[1]論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと）

・九州大学におけるJDXnetの構成と運用とWINシステムの６４ビット化 、データ流通網への参加のためのワークショップ（於・東京大学地震研究所、2010年3月30日）、謝辞への記載あり、5ポイント